

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀		
所在地	千葉県千葉市若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成29年3月3日	評価結果市町村受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念である『その人らしさを追及し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます』を掲げお手伝いをしています。安心・安全なサービスの提供を基本としながら、一人ひとりの生活歴に合った個別ケアに取り組んでいます。高齢化・重度化している中で、主治医や薬局、訪問看護師との連携により信頼と安心できる医療サポートを受けることができ、スタッフは『認知症の状態にある方』の事実を受け止め、感情に配慮しながら有する能力を発揮できるよう、ご本人が負担に感じない、さりげない支援を実践しています。スタッフの定着率もよく、チームワークに優れた事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR・モノレール都賀駅に近く、閑静な住宅地の一角にある2ユニットのグループホームである。今年4月で就任3年目のホーム長は、「固定観念にとらわれず・介護を楽しむ」をモットーに、干渉しすぎず、任せる事で職員の成長を促している。ホーム運営は、2人のユニット長と連携して「先ずやってみよう」と励まし2人の指導性を発揮させている。男性職員比率が6割、ホームでの経験は3年未満が半分、残りは10年以上と若さと熟練性も併せ持つ、明るく力強い雰囲気のあるホームとなっている。ホームの運営に対しては多くの家族の参加と協力があり、利用者のお世話や話し相手、外出時の同行など職員顔負けの応援をしてくれる。家族と職員の連携とコミュニケーションも良く、アンケートでも「ホームは気軽に訪ねて行ける、家族の話をよく聞いてくれる」などの声が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしさを尊重し尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます』を掲げています。 毎朝の朝礼や会議の場において唱和しています。	法人の社是、経営理念の他に、ホーム独自の理念を作り、事務所に掲示している。毎朝の朝礼や会議で唱和し、ホーム会議・担当者会議で理念が実践されてるかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の盆踊りに参加したり、地域の子供たちがホームでの納涼祭に参加して下さったりしています。 また、玄関前は地域のご高齢の方たちの憩いの場になっています。	自治会に加入、地域の盆踊りなどに参加している。地元の子供たちの太鼓クラブが来訪、ホーム納涼祭には近隣住民も参加してくれる。玄関前は早朝から近くの老人が集まり、利用者とは顔なじみの方も多く、お互いの交流の場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際、こちらからご挨拶をすることで、地域の方たちと交流し、認知症の状態にある方へのご理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催しています。地域包括やご家族様にて構成され、活動報告や行事報告を行っています。さまざまなご意見を頂戴し、サービスの向上に役立てています。	安心ケアセンター桜木、家族の参加を得て、年間4回開催した。安心ケアセンターより、福祉全般及び市の福祉動向や運営点に対する説明がある。ホーム運営状況や課題なども説明し、アドバイスを頂き、運営に活かしている。	自治会役員や民生委員などの地域の方の参加可能な開催日時を見直して、参加要請を引き続きお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括の方が参加しており、また、千葉市介護ボランティア制度を積極的に受け入れています。	市の高齢者支援課などによる集団指導に参加したり、相談事があれば直接に市窓口を訪問して、打合せをしている。市のボランティア制度に応募した団体を紹介され受け入れることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを実践し、玄関の施錠やベッド柵でベッドを囲んだりの抑制もしいケアに努めています。	市の身体拘束廃止ケアの研修への参加、支店の研修、ホーム研修などを実施し、ホーム会議などで話し合っている。同時に身体拘束や虐待の防止には職員のストレス対策も重要と考え、ホーム長は職員一人ひとりと話し合う機会を設け、アドバイスしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内マニュアルに沿って事例集を活用しながら勉強会を開催しています。 外部研修にも積極的にエントリーしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいらっしゃいます。その際、成年後見人制度について学ぶ機会がありました。後見人様の面会も定期的であり、必要な情報を提供し、ご安心していただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者、ご家族が抱える不安や心配などを伺いながら、ご理解、ご納得いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況をご報告しご要望を伺っています。また、月1度、スタッフからの直筆のお手紙やホーム新聞をお届けし安心していただいています。また、年1度、顧客満足度調査も行っています。	家族の来訪が大変多く、運営推進会議・ホーム行事・利用者の支援に積極的に参加するので、その機会を捉え話し合っている。来訪の少ない方には、職員が交代で近況を知らせる手紙を書いたり、電話で話を聞くなどで、共有して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度以上の会議及び、面談の場において意見や提案を募り、反映しています。	ホーム長はいつでも、誰でも話し合えるホームの雰囲気を作り、プライベートな相談にも気軽に応じるなど、職員との信頼関係を作り上げている。職員意見はホーム会議・担当者会議などで聞き、年2回の個人面談でも確認し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者はキャリアアップ制度による昇給があり、また、正社員への登用制度もあります。28年度は2名の社員登用しました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未資格者を採用し、働きながら資格取得したスタッフが現在活躍しています。各種社内研修が充実しており、受講を促進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に所属しています。また、地域交流会や勉強会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、ケアマネージャーやリーダーが面談させていただき、傾聴することで、ニーズを引き出しています。初期のアセスメントを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームのご見学やご相談を事前に行っていたり、ホームで生活していく上での不安や心配、疑問、ご要望を伺い、それに対してご納得いただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前にスタッフ間での情報共有の為に担当者会議を開催しています。まずは、安全に生活できることや、生活に馴染むこと、信頼関係が構築できるよう話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、困難なことをスタッフが把握することで、役割や作業を一緒に行い関係を維持しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お部屋に写真を飾ったり、日常会話でご家族の話題を織り交ぜ、存在や関係維持を図っています。ご家族が外出行事と一緒にご参加下さったり、日々の介助の場面にもご家族の支援があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人との年賀状やお手紙のやり取りがあります。ご自宅へ短期外泊される方もいらっしゃいます。	入居後も馴染みの美容室やスーパー等へ継続して行けるよう支援している。毎週、食事介助や排泄介助に来る家族が4~5名おり、全体の6割の家族は毎月来訪し、一緒に外食などに出掛けている。お正月には住み慣れた自宅で家族と過ごす方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の相性もあるので、お互いがご気分を害さぬよう、席次に配慮したり、スタッフが間に入り、関係を取り持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去が決まった際は、ケアマネージャーを中心に今後のご相談、支援を行っています。また、ご退去後も可能な限り、ご面会に伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりより、ニーズを引き出しご本人の意思の把握に努めています。表現が困難な方には、ご家族のご意向も伺っています。	一人ひとりに寄り添い、耳を傾けゆっくり話しを聞き思いや意向等を読み取り、困難な方は2選択肢で自分で選べるようように工夫している。それらを介護記録に記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日、お仏壇にお水をお供えしたり、昔培った才能に準じた作業や日常的な家事全般において、無理のない範囲で頑張っていたいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画、介護記録を基に、バイタルサイン、排泄状況、食事量、水分量等を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今必要な課題を主治医や薬局、訪問看護師、ご家族と話し合い共有しながら、担当者会議を経て計画書を作成しています。	課題があれば家族をはじめ必要な関係者からの意見を反映し、担当者会議で話し合っている。モニタリングは短期目標に合わせ実施し、見直しはその都度行い、計画作成担当の各ユニット長が現状に即した介護計画を作成し、家族へは面会時や電話で説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や活動内容、発言等をアセスメントとして捉え、共有することで介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要とされる福祉用具について専門家のご意見をいただいています。訪問理容、訪問看護、訪問マッサージの対応も行っています。また、千葉市オムツ給付事業も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアさんの定期的な訪問や近所の美容室を利用される方もいらっしゃいます。近隣のスーパーへお買い物にも出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回以上の訪問診療以外にも、状態の変化がみられた際は、すぐに主治医へ連絡がとれる体制が整っています。ご希望があればご家族との面談にも応じて下さいます。	利用者・家族の了解を得、全員が訪問診療専門医を主治医とし月2回の往診がある。医師と24時間連絡が取れる体制で急変時の対応も迅速である。看護師の訪問が毎週あり、主治医へその日の状況を報告し情報共有している。週1回の訪問歯科による治療と口腔ケアがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度、看護師による訪問があります。日々の状況や気になる事柄において、主治医に報告のうえ、情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、ご本人の状態の把握に努めていただいています。可能な限り面会し、看護師より近況の報告を受けることで現状の把握に努めています。退院時には、医師、PT等からの指導を受けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に『重度化した場合の指針』をご説明のうえ、ご同意をいただいております。終末期においては、ご家族、主治医、ホームで話し合いのもと、可能な限りご希望に添えるようにしています。	契約時に本人・家族の希望に添えるよう最期まで支援することを伝えている。終末期には主治医を交え、家族や関係者と話し合いを重ね、方針の統一を図っている。昨年看取りが3件あり、経験を活かし、ホーム長は各職員と話し合う機会を設け、終末期の心のケアに備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内マニュアルに基き、研修を行っています。また、社外研修にも積極的に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、年2回の消防避難訓練を実施しています。	年2回、火災を想定した避難訓練をホームで実施し、消防署から消火器を借り、消火訓練も行い、管轄の消防署へは防災訓練内容を報告している。備蓄品は玄関横の納戸に日用品、食料、水の三日分を保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	節度のある親しみやすい言葉や穏やかな声掛けや方言等、ご入居者様にとって不快を感じさせない工夫をしています。	一人ひとりの尊厳を保ちながらも、個々に合わせた言葉かけで対応している。入浴の際、希望があれば同性介助で対応し、トイレ誘導時は羞恥心に配慮しながらも、さりげない声掛けや支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や献立を決める場面にて意向を伺っています。困難な方については2択で選んでいただいたり工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息したい方、活動したい方などに合った準備や支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えはご家族のご協力を得ながら行っています。季節感やご趣味に応じた支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューのご要望を伺ったり、一緒にお買い物の際にリクエストがあったりと柔軟に対応しています。食事形態においても、刻み食やミキサー食にも対応しています。盛り付けや下膳、食器拭き等、能力に応じてお手伝いして頂いています。	利用者の希望やメニューが重ならないよう工夫し、職員が交代で調理を作っている。食材購入・下準備・盛り付け等は個々の力を活かし職員と一緒に言い、食事を楽しんでいる。刻み食やミキサー食の方もおり、摂食介助ではゆっくり丁寧に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より1日の水分量の目安の指示があり促しています。メニューカレンダーを作成し、食材が重ならないように工夫しています。また、水分量や食事量を一目で把握できる帳票も使用し、健康管理に役立っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の生活習慣を重んじながら1日2回は行っています。義歯の方は就寝前にお預かりし、消毒を行っています。定期的な訪問歯科による治療・指導も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録等で排泄のサイクルやサインを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう努めています。 羞恥心に配慮した言動を心がけています。	介護記録に排泄記入覧があり、個々の排泄パターンを把握し、声掛けや介助が必要な方を誘導することで日中は全員トイレで排泄ができています。夜間はオムツ使用以外の方をはじめ、車椅子の方でも希望があればトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用しなくても自然排便を促せるよう、便秘によいとされる食材や、水分、適度な運動を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングはスタッフ主導になってしまっていますが、週に3回以上はお楽しみいただけるよう努めています。お好みの入浴剤を使用することで、お喜びいただいています。	午後から一日に3名ずつ、一人週3~4回の入浴が楽しめるように支援している。寝たきりの方は2人体制で安全に対応している。入浴を拒む方は、日時や職員を替えたり、声掛けに工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表現が困難な方には、活動と休息のバランスを見極め、負担のないように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報書は各ユニットにて管理し内容を確認し、変更時には申し送りを行い情報共有に努めています。服薬にミスが生じないように、服薬時は2名でのチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力に応じて、得意分野で力を発揮していただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回は福祉バスや介護タクシーを利用して遠足に行っています。その際はご家族が同伴してくださる場合もあり、良い気分転換となっています。また、お散歩やお買い物等も可能な限り行っています。	天気の良い日は車椅子の方を含め、個別または2、3人ずつ近隣周辺を外気浴・散歩・買い物等へ出掛けている。介護タクシーを利用して春には2ユニット合同で、秋には各ユニット毎に動物園へ行き、家族の方も参加され楽しい一日を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホーム管理となっていますが、ご本人からのお買い物のご要望があればすぐに持ち出せる体制が整っています。使用した際は、レシートを添付した出納帳をご家族にお届けしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙や年賀状のやり取りがあります。連絡先を記した手帳を大切にお持ちになられている入居者様もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾と一緒に作成し季節感を感じていただけるよう支援しています。温度や湿度、遮光はスタッフにて管理させていただいています。	四季に合わせて利用者と職員で作品を作り装飾し、季節感を採り入れている。居間兼食堂と廊下のモップかけ・食事の準備・洗濯もの畳み等を職員と一緒にを行い、身の回りのことが自立して楽しく生活が送れるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりの静かな場所にソファセットを設け、静かな時間を提供できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具やお気に入りの物を、ご家族のご協力のもとお持ちいただき、ご自宅にしているような生活が継続できるよう支援しています。	使い慣れた家具やテレビを設置し、また加湿器を置き、湿度にも気をつけ、それぞれの個性を大切に居心地よく過ごせるように支援している。家族の訪問も多く、各居室は整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームとして設計された建物のため、全館バリアフリーで、手摺りや引き戸等、安全に配慮されています。各居室に表札やトイレに張り紙を施し、自立した生活が送れるように工夫しています。		